

(7-1) 第1回気仙沼・本吉圏域会議

【日時】令和6年7月26日(金) 13時30分から15時20分まで

【場所】気仙沼合同庁舎 大会議室

(1) 本県の観光の現状・課題に対する認識

- 三陸道が完成し、気仙沼・本吉圏域はほとんど日帰りとなっている。滞在時間を長くする、宿泊させるため、宿泊施設と組んで事業を進めるなどの取組が必要。
- 今後、財源が限られてくる中で、課題解決に直結するような事業の優先順位を上げて、施策の柱にしていく必要がある。
- 教育旅行は宮城県だけに来るのではなくて、周りを經由して入ってくるところが多く、町だけの誘致では力不足。今は、誘致合戦になっており、今ある素材とターゲットをうまく絞りながら、県と連動して誘致を一緒にできれば、まだまだ伸びしろはある。
- 気仙沼では夜のタクシーが激減している。ホテルに迷惑をかけないよう頑張っているが、タクシーの手配が難しくなっている。お客さんを移動させることは大事だが、夜、外出することが難しくなっている現状。
- 実際の事業実績の数値や効果は具体的に、令和4年度、5年度でどうだったのか。また、それを修正しながら6年度にどう行っていくのかということが見えない。今後の資料等で具体性が出てくることを期待したい。
- 観光スタイルが変わっている中、宮城県が1番どころか2番手、3番手にもなっていない。令和元年の水準までも到達していない部分があり、このままでいけるのか疑問。
- コロナが明けて、様々な取り組みをしていただいているが、それがどう宿泊に結び付いたか実感がない。団体客がなく、まとまった集客は、教育旅行に頼らざるを得ず、県も推進しているので一緒に頑張った。
- 団体旅行は戻らない。企業も団体で旅行するのは、少ないのではないかな。
- 夜景が綺麗なので、歩いてみると良いなどと、外出を促す対応を行っている。浮見堂周辺や星空などの綺麗な場所についても、今後、促せるような方向になれば良い。
- ツールド東北などは石巻が中心となっており、この2年間は全く来客がなく大変残念。おかえりモネも、あれほどの全国区のものが、薄くなってしまうことがすごく残念。
- 5月ぐらいまでは毎日インバウンド客が来ているという実感があったが、6月以降、観光客が少なくなると同時にいなくなった。我々も原因を深掘りするとか、外国人にアンケートをとるなど、予算をかけなくてもできることがあるのではないかなと思う。

(2) 本県の観光が目指すべき姿や観光戦略プロジェクト

- 教育旅行を一つの柱とするならば、大人を対象とした企業研修も進めるべき。震災のあった我々の地域では、コンテンツが揃っており、飲食を含めて消費も期待できる。
- 観光客の多くは食事が目当て。食に関するコンテンツや、取り組みが弱い。食、特にガストロノミーツーリズムが非常に有効。

- 宿泊施設等の改修には投資が必要なので、宿泊事業者が投資をどのような形で行っていくのか示すほか、収益性も含め、再投資できる環境づくりも進めていくべき。また、観光産業への投資について、外資等、県内外問わず今まで観光産業に携わっていなかった事業者へも促していくべき。
- 人手不足はどの産業も同じ。需要が増えれば、それに伴って観光関連事業の人手も不足する。デジタル化はもちろん、観光産業あらゆる部分で外国人の雇用を進めるべき。
- 「取組の方向性と主な施策」で、新たな財政需要に対応するため宿泊税の導入・検討を進めると記入されている。新たな財政需要とは何をイメージしているのか。宿泊税の導入をここに明記した方がいいのか、もう一度議論していただきたい
- スポーツ大会の誘致が有効。大会を開催すれば、役員などが現地視察に来るほか、家族やコーチ、応援団、役員、スタッフ等の宿泊も見込める。大会に合わせて体験教室を開催すれば、より愛着がわくと思う。
- 宿泊税の導入は今ではない。逆にマイナスイメージを与えかねない。
- 県の観光戦略プランなので、出来栄えとしては良いと思うが、総花的になっているので、各地域で今期はこれに力を入れるというのがあったと良い。要するに、刺さるコンテンツは何かということ。イベントは、集客には非常に大きい効果がある。
- イベントをどう継続していくか、そういうイベントが立ち上がった場合、それをどう支援していくのが大事。今年の仙台のポケモンイベントがすごかった。あれが毎年あるだけでも相当な効果。イベントをどう誘致するのか、支援していくのが重要。
- 多く来てもらうことも重要だが、来た方の消費額をどう上げていくかがポイント。

（３）数値目標の設定方針

- 宮城県全体が東北で一番の観光立県になる場合は、これから３年ぐらいの数字目標が出てくると思うので、ぜひ示していただきたい。